

第2学年 国語科 学習指導案

1. 題材名 「敦盛の最期（平家物語）」

2. 生徒の実態

進んで発表する者はいないが、学習活動にはきちんと取り組む。既習内容に定着が見られず、復習に時間がかかる傾向にある。

3. 題材観

本格的な古典学習のスタートとなる教材である。文体はいわゆる和漢混淆文といわれるもので、七五調の流れるようなリズムで、対句を織り込んだりしながら、漢語・和語や大和ことばなど、さらには擬態語・擬音語などを効果的に用いて流麗に語られている。

4. 指導観

実際に声に出して読ませることに重点をおいた指導を展開したい。本格的な古典学習のスタートとなる教材として、音読を繰り返すことによって古文の持つリズムや響きを味わわせていきたい。

5. 題材の目標

- 古文独特のリズムや響きを読み味わう。
- 昔の物語に親しみ、登場人物の心情や生き方について感想を持つ。

6. 題材の学習計画 < 時間 >

時	学 習 内 容
1	冒頭の音読と内容の理解。暗唱の練習。
2	一の谷の戦いの解説と本文の範読。（仮名遣いに注意して読めるようにルビをふる）
3	仮名遣いに注意しての音読と内容の理解。 <本時>
4	基本事項の確認（歴史的仮名遣い・係り結び・対句などの表現技法・指示語の内容）
5	登場人物の心情や生き方についての感想。（文章表記）

7. 本時の学習 (3/5)

(1) 目標 ○ 声に出して読み、古文のリズムを読み味わう。

(2) 展開

過程	生徒の活動	教師の支援	留意点
導入	<ul style="list-style-type: none"> ○前時の学習を想起する ○教師の範読を聞き、教科書にルビをふる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○範読する。その際、仮名遣いや漢字にルビをふるように指示する。 	
展開	<ul style="list-style-type: none"> ○教師の後について音読する。 ○全員で声をそろえて音読する。 ○列で教師の区切ったところまでを順番に音読する。 ○口語訳プリントで内容を理解する。 ○各自原文の読む練習をする。 ○班毎に役割を分担し、読む練習をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○先生の後について読むように指示する。 ○全員で音読するよう指示する ○列読みを指示する。 ○プリントを配布し、解説する ○机間巡視をして個別に支援に当たる。 ○班毎に役割を分担させ、練習するように指示する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・声が小さいときは繰り返す ・そろわない場合はやり直させたり、教師も一緒に読み、リードする。 ・5分程度 ・人物各一人、その他は字の文を読む
終末	<ul style="list-style-type: none"> ○班毎の練習の成果を発表する。 ○次時の学習内容を確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○班毎に発表させる。 ○次時の学習内容の予告をする 	<ul style="list-style-type: none"> ・教師側の評価を忘れない。

(3) 評価 ○ 声に出して読み、古文のリズムを読み味わうことができたか。